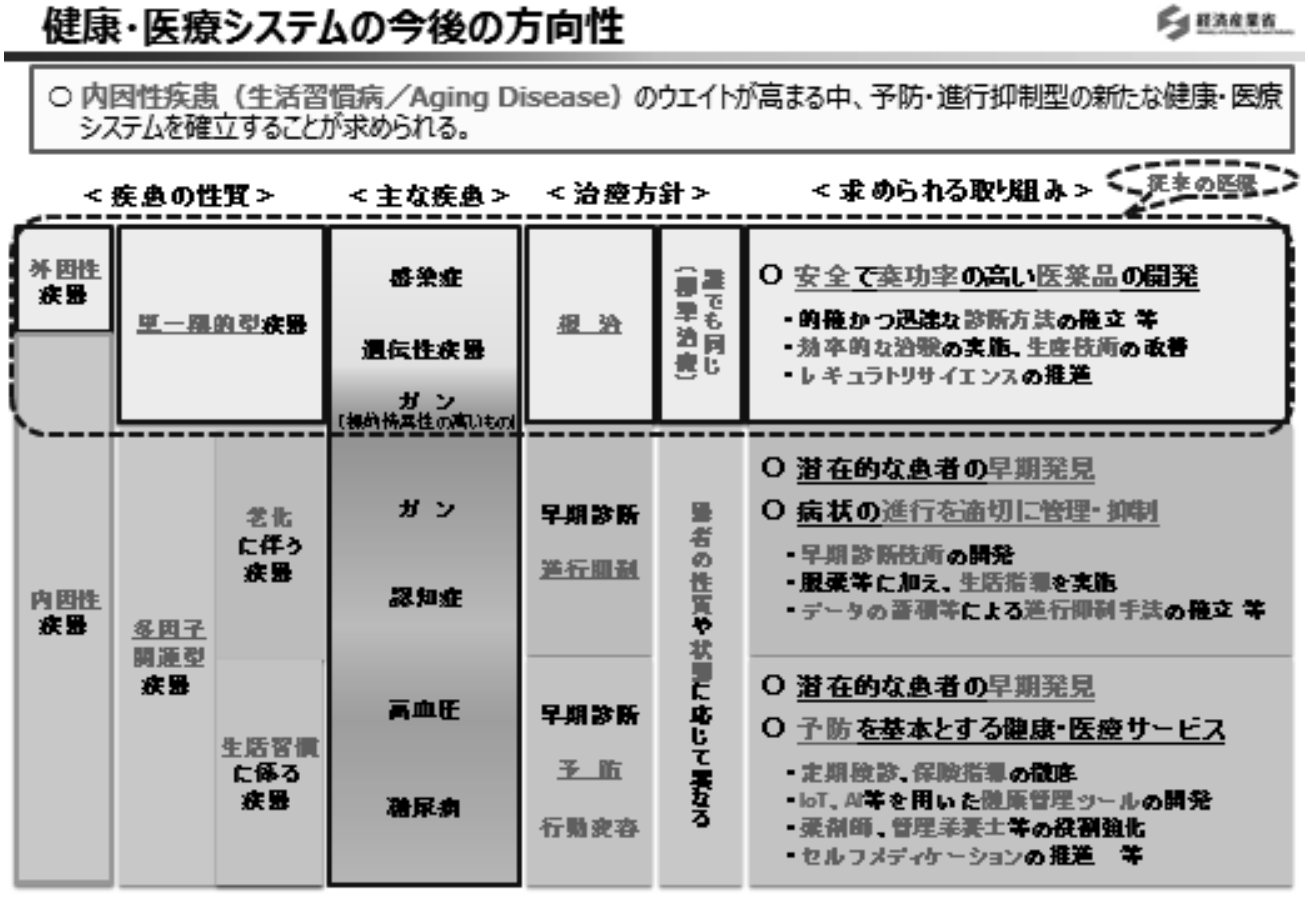
SL03　社会保障制度改革の視点　―生涯現役社会の構築を目指して―
Viewpoint on Social Security System Reform —Aiming to Create a Lifelong Active Society—

江崎 禎英（Yoshihide ESAKI）
経済産業省 商務・サービスグループ／内閣官房 健康・医療戦略室（Deputy Director-General for Healthcare & Medical Policy / Ministry of Economy, Trade & Industry, and Cabinet Secretariat, Government of Japan）

我が国の社会保障制度は、戦後復興・経済成長期に基本設計がなされており、世界に冠たる日本の「国民皆保険制度」は、結核に代表される感染症が死因の上位を占めていた時代に整備されたものです。その後、経済の発展と医療技術の進歩により、人類はより長い人生を享受することが可能になりました。社会の高齢化は、我々が長きに亘って追い求めてきた長寿への努力の結果なのです。

社会の高齢化の進行に伴い、主たる疾病は、結核などの外因性疾患から、がんや糖尿病などの内因性疾患に変化しています。この結果、製薬業界は、従来の「万人薬」アプローチから、個々の健康状態に焦点を当てた「個別化医療」アプローチへと大きく変化しています。 また、「治療」だけでなく「疾病予防」への取り組みを加速することが重要になっています。

様々な種類の医療問題を解決し、経済成長を刺激する方法として、多くの国で新技術への期待が高まっています。 しかし、技術革新は技術開発だけでなく、産業や社会のパラダイム転換であり、常識を変えることです。 これらの変化に適切に対応することができれば、医療費や介護費用といった公的財政負担が軽減されるとともに、社会ニーズを踏まえた新たな産業が生まれて来るのです。